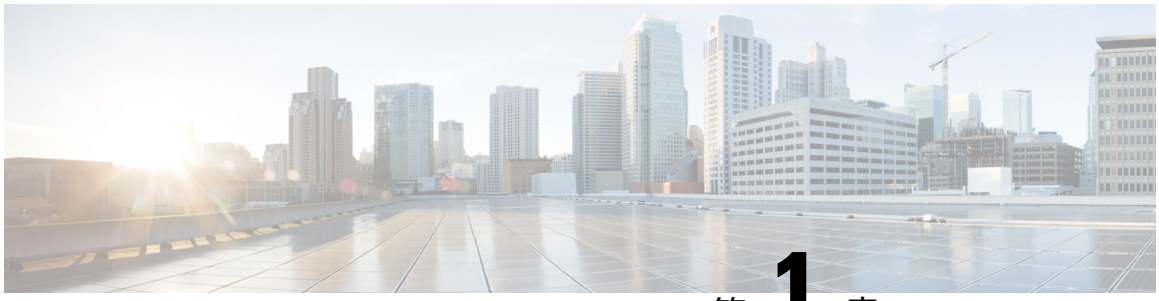
Cisco DNA Center 不正管理アプリケーション リリース 1.3.3.0 クイックスタートガイド

初版：2020 年 1 月 20 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

目 次



第 1 章

Cisco DNA Center 不正管理アプリケーション

Cisco DNA Center不正管理アプリケーションについて

不正管理アプリケーションは、Cisco DNA Centerにインストールできるオプションのパッケージです。不正な管理アプリケーションは、Cisco DNA Center 内で動作し、不正アクセスポイントからの脅威をモニタするのに役立ちます。Cisco DNA アシュアランス GUI Cisco DNA Center では、のダッシュボードとして不正管理機能にアクセスできます。

このガイドでは、Cisco DNA Center で不正管理アプリケーションパッケージをアクティブ化する方法について説明します。このガイドでは、前提条件と設定について説明し、不正管理ダッシュボードをモニタする方法について説明し、重要な注意事項と制約事項についても説明します。

（注） 不正管理アプリケーションは、 シスコ ワイヤレス コントローラ が実行する Cisco AireOS リリース8.8.111.0 以降と Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ に対応しています。不正管理アプリケーションは、Catalyst 9300 シリーズ スイッチ用 Cisco Catalyst 9800 組み込みワイヤレス コントローラ、Cisco Catalyst 9800-40 ワイヤレスコントローラ、Cisco Catalyst 9800-80 ワイヤレスコントローラ、Cisco Catalyst 9800-CL クラウド ワイヤレス コントローラ、Cisco Catalyst 9800-L ワイヤレスコントローラ、Catalyst アクセスポイント上のシスコ組み込みワイヤレスコントローラ などの複数の Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ フォームファクタをサポートしています。

概要

Cisco DNA Centerの不正管理アプリケーションは、脅威を検出して分類し、ネットワーク管理者、ネットワークオペレータ、およびセキュリティオペレータがネットワークの脅威をモニタできるようにします。Cisco DNA Centerは、最も優先度の高い脅威を迅速に特定するのに役立ち、Cisco DNA アシュアランス内の不正管理ダッシュボードでこれらの脅威をモニタできます。

不正なデバイスとは、ネットワーク内で管理対象のアクセスポイントによって検出される、未知（管理対象外）のアクセスポイントまたはクライアントのことです。不正 AP は、正規のクライアントをハイジャックすることによって、無線LANの動作を妨害する可能性があります。ハッカーは不正 AP を使用して、ユーザ名やパスワードなどの機密情報を取得できます。すると、ハッカーは一連の Clear To Send（CTS; クリア ツー センド）フレームを送信できるようになります。このアクションは、特定のクライアントに送信するように通知し、他のすべてのユーザに待機するように指示する AP を模倣します。その結果、正規のクライアントは、ネットワークリソースに接続できなくなります。したがって、無線LANサービスプロバイダーは、境域からの不正なアクセスポイントの締め出しに強い関心を持っています。

不正なAPは安価で簡単に利用できることから、企業の従業員は、IT部門に報告して同意を得ることなく、認可されていない不正なAPを既存のLANに接続し、アドホック無線ネットワークを確立することがあります。これらの不正な AP は、企業のファイアウォールの背後にあるネットワークポートに接続されているとき、重大なネットワークセキュリティ侵害につながるおそれがあります。通常、従業員は不正な AP のセキュリティ設定を有効にしないので、権限のないユーザがこの AP を使って、ネットワークトラフィックを傍受し、クライアントセッションをハイジャックすることは簡単です。さらに警戒すべきことは、無線ユーザはセキュリティで保護されていない AP の場所を頻繁に公表するため、企業のセキュリティが侵害される危険性も増大します。

Cisco DNA Center すべての近くの AP を継続的にモニタし、これらの不正 AP に関する情報を自動的に検出して収集します。

Cisco DNA Centerは、管理対象APから不正なイベントを受信すると、次のように反応します。

1. 不明な AP がCisco DNA Centerによって管理されていない場合は、Cisco DNA Centerによって不正分類ルールが適用されます。
2. 不明なAPがネットワークと同じSSIDを使用していない場合は、Cisco DNA Centerが、APが企業の有線ネットワークに接続され、有線ネットワークに通じているかどうかを確認します。企業ネットワークのスイッチポートに物理的に接続されている場合 、Cisco DNA Centerは AP を**有線ネットワーク上の不正**として分類します。

（注） Cisco DNA Centerにより、有線ネットワーク上の不正でない AP が誤って有線ネットワーク上の不正として分類される場合があります。この誤った分類は、不正なクライアントが不正有線ネットワーク上の不正 AP から有線ネットワーク上の不正でない AP にローミングしている場合に発生します。新しい不正 AP を含む新しい不正クライアントレポートが受信され、そのクライアントのホストエントリが、不正クライアント情報を削除する前にCisco DNA Centerで使用できるようになります。これは、不正なクライアントのスイッチポートの詳細がスイッチで削除され、Cisco DNA Centerと同期されるまでに時間がかかるためです。そのため、クライアントがローミングする新しい不正 AP は、同期が発生する前に不正として分類されます。

3. AP がCisco DNA Centerに対して不明で、ネットワークと同じ SSID を使用している場合、Cisco DNA Centerは AP を**ハニーポット**として分類します。

（注） 以前にハニーポットとして分類された検出されたSSIDは、バックアップには保持されません。したがって、復元操作の後、SSID はハニーポットとして分類されません。

4. 不明なAPがネットワークと同じSSIDを使用しておらず、社内ネットワークに接続されていない場合、Cisco DNA Centerは、干渉が発生しているかどうかを確認します。存在する場合は、Cisco DNA CenterはAPを**干渉源**として分類し、不正な状態を**潜在的な脅威**としてマークします。ネットワーク上の干渉源を分類するためのしきい値レベルは -75 dBm です。

5. 不明なAPがネットワークと同じSSIDを使用しておらず、社内ネットワークに接続されている場合、Cisco DNA Centerはその APがネイバーであるかどうかを確認します。ネイバーである場合、 Cisco DNA CenterはAPを**ネイバー**として分類し、不正状態を**情報**としてマークします。ネイバー AP として分類するしきい値レベルは、-75 dBm 以下です。

拡張性に関する情報

次の表に、異なるバージョンのCisco DNA Centerアプライアンスでサポートされている不正APおよび不正クライアントの数を示します。

表 *1:* サポートされている不正 *AP* および不正クライアントの数

Cisco DNA Center アプライアンス	サポートされる不正 AP の数	サポートされる不正 クライアントの数
44 コアCisco DNA Centerアプライアンス	24000	32,000
56 コアCisco DNA Centerアプライアンス	24000	32,000

112 コアCisco DNA Centerアプライアンス	96,000	128,000

基本的な設定のワークフロー

ステップ 1 Cisco DNA Center をインストールします。

詳細については、『Cisco Digital Network Architecture Center インストールガイド』を参照してください。

ステップ 2 **不正管理**アプリケーションパッケージをダウンロードしてインストールします。

詳細については、「不正管理アプリケーション パッケージのダウンロードとインストール Cisco DNA Center （7 ページ）」を参照してください。

ステップ 3 不正管理アプリケーションが **[展開済み（Deployed）]** の状態になっていることを確認します。

確認するには、Cisco DNA Center のホームページで、歯車アイコン（⚙）をクリックし、**[システム（System）]** > **[設定（Settings）]** > **[インストール済みアプリ（Installed Apps）]** を選択します。

ステップ 4 これ以降のリリースでは、不正管理ページで不正管理アプリケーションを有効にする必要があります。

これにより、シスコ ワイヤレス コントローラとCisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの不正検出が有効になります。

これを行うには、**[不正管理 （Rogue Management）]** ウィンドウの右上隅にある **[不正 （Rogue）]** ドロップダウンリストから **[有効化 （Enable）]** を選択します。

ステップ 5 シスコ ワイヤレス コントローラのようなデバイスや AP を、ディスカバリ機能を使用して検出します。

サービスポート IP アドレスの代わりに管理 IP アドレスを使用してシスコ ワイヤレス コントローラ を検出します。

詳細については、IP アドレス範囲を使用してネットワークを検出（Discover Your Network Using an IP Address Range）、CDP を使用したネットワークの検出、またはLLDP を使用したネットワークの検出を参照してください。

ステップ 6 検出されたデバイスが **[デバイスインベントリ（Device Inventory）]** ウィンドウに表示されていることを確認します。

デバイスは到達可能で、**[デバイスインベントリ（Device Inventory）]** ウィンドウで **[管理対象（Managed）]** 状態でなければなりません。

ステップ 7 サイト、ビルディング、フロアを追加してネットワーク階層を設計すると、後で設計の設定や構成を適用する場所を簡単に特定できるようになります。

新しいネットワーク階層を作成します。または Cisco Prime Infrastructure に既存のネットワーク階層がある場合は、それを Cisco DNA Center にインポートできます。

ステップ 8 AP の位置情報を追加し、フロアマップに配置して、ヒートマップカバレッジを可視化します。

ステップ 9 （オプション）ネットワークでのユーザ認証に Cisco Identity Services Engine を使用している場合、Cisco DNA アシュアランス を設定して Cisco ISE を統合できます。統合することで、アシュアランスのユーザ名やオペレーティングシステムなど、有線クライアントの詳細な情報を参照できます。

ステップ 10 （オプション）テレメトリを使用して Syslog、SNMP トラップ、Netflow コレクタサーバを設定します。

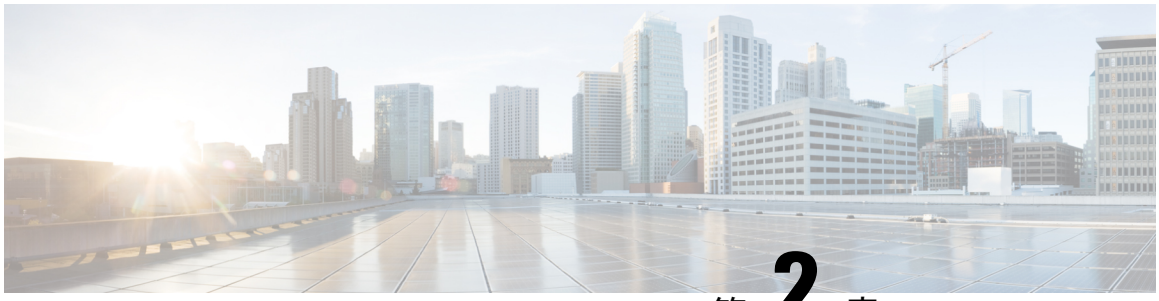
ステップ 11 アシュアランス アプリケーションの使用を開始します。

ステップ 12 （オプション）Cisco Connected Mobile experience （CMX）を Cisco DNA Center と統合して同期します。

X 座標と Y 座標が使用可能な場合は、AP の最も強力な信号強度、または Cisco CMX からの X および Y 座標情報の検出に応じて、フロアマップ上の特定の不正 AP の正確なロケーションの詳細を取得できます。

関連資料

マニュアル	情報
Cisco DNA Center インストールガイド	Cisco DNA Center のインストールと設定（設置作業を含む）について。
Cisco DNA Center 管理者ガイド	ユーザアカウント、RBAC スコープ、セキュリティ証明書、認証およびパスワードポリシー、およびグローバルディスカバリ設定について。 Cisco DNA Centerサービスのモニタリングと管理。 バックアップおよび復元の手順。
Cisco DNA Center ユーザガイド	Cisco DNA Center GUI とそのアプリケーションの使用。
Cisco DNA Assurance ユーザガイド	Cisco DNA アシュアランス GUI の使用。
Cisco DNA Center リリースノート	リリース情報 （新機能、未解決および解決済みのバグを含む）。



第 2 章

Cisco DNA Center の不正管理アプリケーションパッケージのインストール

アプリケーション管理

Cisco DNA Centerはその多くの機能を、Cisco DNA Centerコアインフラストラクチャとは別にパッケージ化された個別のアプリケーションとして扱います。ユーザは設定に応じて、必要なアプリケーションをインストールして実行し、使用していないアプリケーションをアンインストールできます。

[**ソフトウェアアップデート（Software Updates）**] ウィンドウに表示されるアプリケーションパッケージの数とタイプは、Cisco DNA Center のバージョンおよびライセンスレベルによって異なります。使用可能なアプリケーションパッケージはすべて、現在インストールされているかどうかに関係なく表示されます。

任意のパッケージおよびそのパッケージが必須かどうかに関する説明を表示するには、**[更新（Updates）]** タブでそのパッケージの名前にマウスカーソルを置きます。

不正管理アプリケーションパッケージのダウンロードとインストール Cisco DNA Center

始める前に

デフォルトでは、不正管理アプリケーションはCisco DNA Centerにインストールされていません。不正管理アプリケーションパッケージを手動でダウンロードしてインストールする必要があります。アプリケーション管理手順は、**[ソフトウェアアップデート（Software Updates）]**

タブで実行できます。不正管理アプリケーションには、 **Essentials** ライセンスレベルが必要です。

- Cisco DNA Center をインストールします。詳細については、Cisco DNA Center インストールガイドを参照してください。
- リリースノートに記載されているソフトウェア要件を確認します。詳細については、「関連資料 （5 ページ）」を参照してください。

SUPER-ADMIN-ROLE 権限を持つユーザのみがこの手順を実行することができます。

ステップ 1 Cisco DNA Centerのホームページで、歯車のアイコン⚙をクリックして、**[システムの設定（System Settings）]** を選択します。

ステップ 2 **[ソフトウェアの更新（Software Updates）]** タブをクリックします。

[ソフトウェアの更新（Software Updates）] ウィンドウには、次のタブが含まれます。

- **[更新（Updates）]**—システムとアプリケーションの更新を表示します。[System Update] では、インストールされているシステムのバージョンと、Cisco Cloud からダウンロードされ、利用可能なシステムの更新が表示されます。**[アプリケーションの更新（Application Updates）]** では、Cisco Cloud からダウンロードおよびインストール可能で使用可能なアプリケーション、アプリケーションのサイズ、および適切なアクション（ダウンロード、インストール、更新）が表示されます。パッケージにカーソルを合わせると、使用可能なバージョンと基本的な説明が表示されます。
- **[Installed Apps]** — インストールされているアプリケーションパッケージが示されます。

（注） **[Software Updates]** — ウィンドウを起動すると、接続のチェックが実行され、ステータスが表示されます。接続の問題がある場合、**[ソフトウェアアップデート（Software Updates）]** ウィンドウに新しい更新が表示されません。

ステップ 3 不正管理アプリケーションをダウンロードするには、**[ソフトウェアの更新（Software updates）]** > **[更新（Updates）]** > **[アプリケーションの更新（Application Updates）]** でそのアプリケーション名の横にある **[インストール（Install）]** をクリックします。

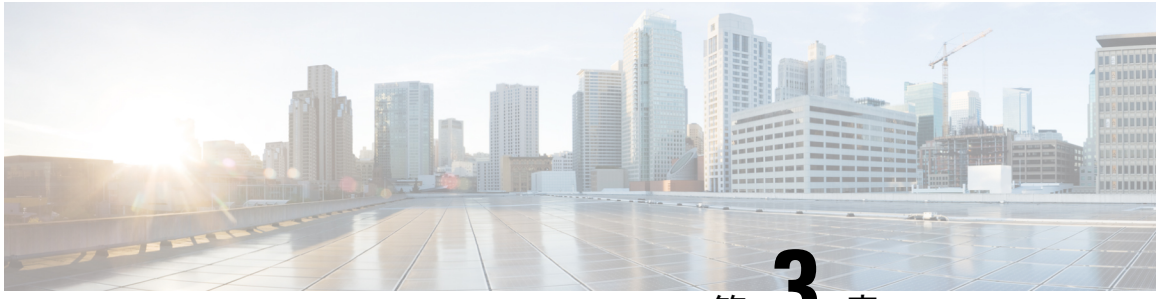
ステップ 4 不正管理アプリケーションを更新するには、**[ソフトウェアの更新（Software updates）]**>**[更新（Updates）]**> **[アプリケーションの更新（Application Updates）]** でそのアプリケーション名の横にある **[更新（Updates）]** をクリックします。

ステップ 5 [インストール済みアプリケーション（Installed Apps）] ウィンドウでアプリケーションのバージョンを確認して、アプリケーションがすべて更新されていることを確認します。

ステップ 6 パッケージをインストールした後、不正管理アプリケーションを有効にする必要があります。

- 不正管理アプリケーションを有効にするには、Cisco DNA Centerホームページから、**[アシュアランス（Assurance）]**>**[ダッシュボード（Dashboard）]**>**[不正管理（Rogue Management）]** を選択します。
- **[不正管理 （Rogue Management）]** ウィンドウの右上隅にある **[不正 （Rogue）]** ドロップダウンリストから、**[有効化 （Enable）]** を選択します。

これにより、シスコ ワイヤレス コントローラとCisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの不正検出が有効になります。



第 3 章

不正管理ダッシュボードのモニタリング

不正管理アプリケーション

不正管理アプリケーションにアクセスするには、Cisco DNA Center にログインし、Cisco DNA Center ホームページで、**[アシュアランス（Assurance）]** > **[ダッシュボード（Dashboard）]** > **[不正管理（Rogue Management）]** を選択します。

[不正管理（Rogue Management）] ダッシュボードウィンドウが表示されます。

（注） アシュアランスアプリケーションを使用する前に、Cisco DNA アシュアランスを設定する必要があります。詳細については、「基本的な設定のワークフロー （4 ページ）」を参照してください。

不正管理ダッシュボードの監視

ネットワークで検出されたすべての不正 AP の詳細な脅威分析とグローバルビューを表示するには、不正管理ダッシュボードを使用します。また、不正管理ダッシュボードは、最も優先度の高い脅威についての洞察を提供し、迅速に識別できるようにします。不正管理アプリケーションは、ストリーミングテレメトリを使用して不正上のデータを取得します。

ステップ 1 Cisco DNA Center ホームページから **[アシュアランス（Assurance）]** > **[ダッシュボード（Dashboard）]** > **[不正アクセスポイントの管理（Rogue Management）]** を選択します。

ステップ 2 **[不正管理（Rogue Management）]** ウィンドウには、次の情報が表示されます。

（注） Cisco AireOS コントローラが最小ソフトウェアバージョンを満たしていない場合は、ダッシュボードの上部に通知が表示されます。通知の [**デバイスに移動**（**Go To Devices**）] をクリックして、サポートされているバージョンにアップグレードします。

- **[不正管理**（**Rogue Management**）**]** ウィンドウの右上隅にある **[不正**（**Rogue**）**]** ドロップダウンリストから、次の機能を実行できます。
  - シスコ ワイヤレス コントローラおよびCisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラで不正検出を有効にするには、**[Enable**（**有効化**）**]** を選択します。

    Cisco DNA Centerリリース 1.3.1.x からCisco DNA Centerリリース 1.3.3.0 に移行する場合は、不正管理サブスクリプションを有効にする必要があります。Cisco DNA Center リリース 1.3.3.0 で追加された新しいデバイスで不正管理サブスクリプションが有効になっていない場合、これらのデバイスは有効になるまで不正管理設定を取得しません。不正管理アプリケーションを有効にすると、不正管理をサポートする新しいワイヤレス コントローラがCisco DNA Centerに追加されると、不正管理アプリケーションが有効になります。
  - 不正アクションを一時的に無効にするには、**[無効化**（**disable**）**]** を選択します。

    表示される **[警告**（**Warning**）**]** ダイアログボックスで [はい（Yes）] をクリックします。

    不正管理機能を無効にすると、ワイヤレス コントローラのデータは、不正管理機能が有効になるまで、Cisco DNA Centerにプッシュされません。
  - **[ステータス**（**Status**）**]** を選択して、不正な設定ジョブのステータスを表示します。
    - [**すべて**（**All**）]、[**失敗**（**Failure**）]、[**成功**（**Success**）]、または **[進行中**（**Progress**）] の各タブをクリックして、不正な設定ステータスをフィルタリングします。
    - コントローラで不正検出操作が正常に有効化された場合は、[**操作**（**Operation**）] 列に [**有効**（**Enable**）] が表示されます。

      設定の変更がコントローラに正常にプッシュされた場合、[**ステータス**（**Status**）] 列に [**成功**（**Success**）] と表示されます。

- 時間と**アクティブな高脅威**グラフの**高い脅威**は、デフォルトで過去 3 時間に検出された不正 AP に関する情報を表示します。グラフ情報は、[**不正管理**（**Rogue Management**）] ウィンドウの右上隅にあるドロップダウンリストから選択した時間間隔に基づいています。

  オプションは、[直近3時間（Last 3 Hours）]、[直近24時間（Last 24 Hours）]、および [直近7日間（Last 7 Days）] です。

- ネットワーク内のサイトのグローバルマップビューを表示するには、 [**不正管理**（**Rogue Management**）] ウィンドウの右上隅にある [**マップの表示**（**Show map**）] アイコンをクリックします。
- タイムスライダを移動して、特定の時間の脅威に関するデータを表示します。タイムラインスライダの下にある **[時間の経過に伴う高レベルの脅威**（**High Threats Over Time**）**]** と **[活発で高レベルの脅威**（**Active High Threats**）**]** のグラフには、それぞれ詳細が表示されます。

- **[活発で高レベルの脅威（Active High Threats）]** ウィジェットは、ドーナツグラフの形式で脅威レベルに関する情報を提供します。グラフにカーソルを合わせると、各脅威レベルで検出された不正 AP の数が表示されます。
- **[時間の経過に伴う高レベルの脅威（High Threats Over Time）]** には、ドロップダウンリストから選択した時間間隔に基づいて、時間の経過に伴う高レベルの脅威に関する情報が示されます。グラフの上にカーソルを合わせると、特定の時点で発生した高レベルの脅威の数が表示されます。

ステップ 3 ダッシュボードの下部には、ネットワーク上に存在する不正 AP のリストが表示されます。

ステップ 4 デフォルトの列表示設定では一部の列が非表示になっています。これは、列の見出しの右端にある 3 つの点 ⋮ をクリックするとカスタマイズできます。

⋮ をクリックしてレイアウトプリセット（**[基本（Basic）]** または **[すべて（All）]**）を選択します。

ステップ 5 テーブルの左端にある [フィルタ （Filter）] アイコン（ ）をクリックして、次の条件に基づいて不正 AP リストを絞り込みます。**脅威レベル**、**不正 AP MAC アドレス**、**タイプ**、**検出 AP**、**検出 AP サイト**、**RSSI**、および **SSID**。

ステップ 6 ネットワーク上の各不正 AP について、次の情報が表示されます。

- **ID**： 不正 AP の ID。
- **Threat Level**：色別に分類された脅威レベル。Cisco DNA Center は脅威を、**高レベルの脅威**、**潜在的な脅威**、**情報**というカテゴリに分類します。
- **Rogue AP Mac Address**：不正 AP の MAC アドレス。
- **タイプ（Type）**：不正 AP のカテゴリタイプ。分類タイプは、**有線ネットワーク上の不正**、**ハニーポット**、**干渉源**、および**ネイバー**です。
- **状態（State）**：不正 AP の状態。
- **接続（Connection）**：不正 AP が有線ネットワークまたはワイヤレスネットワーク上にあるかどうかを示します。
- **検出 AP（Detecting AP）**：不正 AP を現在検出している AP の名前。複数の AP が不正を検出すると、信号強度が最高の AP の検出が表示されます。
- **AP サイトの検出（Detecting AP Site）**：検出する AP のサイトロケーション。
- **RSSI**：検出中の AP によって報告された RSSI 値。
- **SSID**：不正 AP をブロードキャストするサービスセット ID。
- **最後のレポート**： 不正 AP が最後に報告された日付、月、年、および時刻。

脅威 360° ビューから不正 AP の詳細を取得する

脅威 360°ビュー内で、フロアマップ上の特定の不正 AP のロケーションの詳細をすばやく表示できます。

X 座標と Y 座標が使用可能な場合は、AP の最も強力な信号強度、または Cisco Connected Mobile Experience （CMX） からの X および Y 座標情報の検出に応じて、フロアマップ上の特定の不正 AP の正確なロケーションの詳細を取得できます。

ステップ 1 Cisco DNA Centerホームページから **[アシュアランス（Assurance）] > [ダッシュボード（Dashboard）] > [不正アクセスポイントの管理（Rogue Management）]** を選択します。

ステップ 2 特定の AP に対して**脅威 360°** ビューを起動するには、**[脅威**（Threat）] テーブルで対象の不正 AP の行をクリックします。

[脅威 360°（Threat 360 °）] スライドインペインが表示されます。

ステップ 3 上部ペインには、次の情報が表示されます。

- 不正 AP の MAC アドレス
- 脅威レベル
- 脅威のタイプ
- ステータス
- 不正なベンダー
- 最後のレポート

ステップ 4 中央のペインには、不正 AP またはフロアマップ上の脅威の推定位置が表示されます。

- サイトの詳細とフロア番号。
- フロアマップには、管理対象 AP の名前が表示されます。
- フロアマップ  の右上隅にあるアイコンをクリックすると、ワイヤレスコントローラ到達可能性ステータスとともに AP を管理するの IP アドレスが表示されます。
- フロアマップの右隅にある  アイコンをクリックして、場所をズームインします。ズームレベルは画像の解像度によって異なります。高解像度の画像の場合、より高倍率のズームレベルを使用できます。各ズームレベルはさまざまなスケールで表示される各種スタイルマップで構成されていて、対応する詳細が表示されます。マップの中にはスケールを小さくしても大きくしても同じ状態のマップもあります。
-  アイコンをクリックすると、広範囲のマップが表示されます。

- アイコンをクリックすると、マップ アイコンの凡例が表示されます。

表 2: マップ アイコン

フロアマップアイコン	説明
[デバイス （Devices）]	
	アクセス ポイント（Access Points）
	センサー
	不正 AP（Rogue AP）
	マーカー
正常性スコアの平均	
	正常性スコア：8 ～ 10
	正常性スコア：4 ～ 7
	正常性スコア：1 ～ 3
	正常性スコア：不明
AP ステータス	
	センサーのカバー内
	センサーのカバー外

ステップ 5 下部の領域には、次の情報が表示されます。

- [**スイッチポートの詳細** （**Switch Port Detail**）] タブをクリックして、有線ネットワーク上の不正に関する詳細を取得します。[**スイッチポートの詳細** （**Switch Port Detail**）] タブには、**ホスト Mac**、**デバイス名**、**デバイス IP**、**インターフェイス名**、**最後の更新**などの情報が表示されます。

  シスコのスイッチは、有線ネットワーク上の不正の検出に必要です。

- **[検出（Detections）]** タブをクリックして、 **[AP の検出（Detecting AP）]**、 **[AP ドメイン（AP Domain）]**、**[不正なSSID（Rogue SSID）]**、 **[RSSI]**、**[チャネル（Channels）]**、**[無線タイプ（Radio Type）]**、**[セキュリティ（Security）]** 、 **[SNR]** などの情報を表示します。

  テーブルの左端にある **[フィルタ （Filter）]** （ ） アイコンをクリックして、**[不正なSSID（Rogue SSID）]** 、 **[RSSI]**、**[無線タイプ（Radio Type）]**、**[セキュリティ（Security）]**、**[SNR]** に基づいて検索結果を絞り込むことができます。

  情報をエクスポートするには、**[エクスポート （export）]** アイコンをクリックして、システムに保存します。

- **[クライアント（clients）]** タブをクリックすると、不正 AP に関連付けられているクライアントに関する次の詳細情報が表示されます。 **MAC アドレス**、**ゲートウェイ MAC**、**不正 AP Mac**、**IP アドレス**、および**最終検知**です。

  テーブルの左端にある **[フィルタ （Filter）]** （ ） アイコンをクリックして、検索条件に基づいて検索結果を絞り込むことができます。